



起第一陸間周辺水泳場
(昭和 31 年撮影)



起第一陸間周辺水泳場跡
(平成 26 年撮影)

第 2 章 景観計画区域と方針

1 景観計画区域	16
2 基本理念	17
3 景観形成の基本方針	18
4 ゾーン別景観形成の方針	19
(1) 軸の方針	20
(2) ゾーンの方針	22



第2章 景観計画区域と方針

1 景観計画区域

本市は、本市境かつ県境として広大な木曾川が横たわっており、また多くの幹線道路や鉄道が走っています。さらに、中心市街地においては、一宮市の由来となった真清田神社が位置していることや、新たなランドマークである、尾張一宮駅前ビル（i-ビル）など、本市の顔となる景観を構成しています。これらの市全体に影響のある景観を将来に引き継いでいくため、景観計画区域を一宮市全域とし、市全域で景観の形成に取り組んでいくこととします。



2 基本理念



木曽川に育まれた歴史や文化が織りなす

親しみのあるまち 一宮

「木曽川」の景観は市民が最も魅力を感じており、木曽川の存在が本市の「歴史」や「文化」を育み、尾張地域の中心として発展を後押ししてきました。そして、尾張地域の中心としての風格の中にも、市民から景観に求められる声が多かった「親しみ」を兼ね備えた景観こそが一宮市らしい景観となりえると考え設定するものです。



3 景観形成の基本方針

景観に関する上位関連計画をはじめ、これまでとらえた本市の景観に対する課題や新しい視点等を受け、市全域を対象とした本市特有の良好な景観形成のための理念を定めるとともに、これを達成するための5つの基本方針を設定します。

【方針1】中核市としての風格と親しみやすさを兼ね備えた景観づくり

本市が中核市に移行する令和3年に市制施行100周年を迎えて、尾張地方の中心地として、一宮らしさから捉えた風格を磨き、親しみや安らぎが感じられる景観づくりを行います。

【方針2】木曽川に抱かれたふるさととしての自然景観づくり

一宮市民の一体感のよりどころであり、共有する原風景である木曽川をはじめ、平地に多数の河川や水路がネットワークされており、都市の中にある身近で雄大な自然景観を育み、触れ、親しめるような自然景観をつくっていきます。

【方針3】歴史や新しい文化が融合した、メリハリのある景観づくり

これまで本市が培ってきた歴史や文化が息づく深みのある景観に加え、商業、観光や交流における多様で新たな価値の創造や豊かな生活環境の醸成などの景観が融合した、深みとメリハリがある景観づくりを行います。

【方針4】活気とにぎわいのある景観づくり

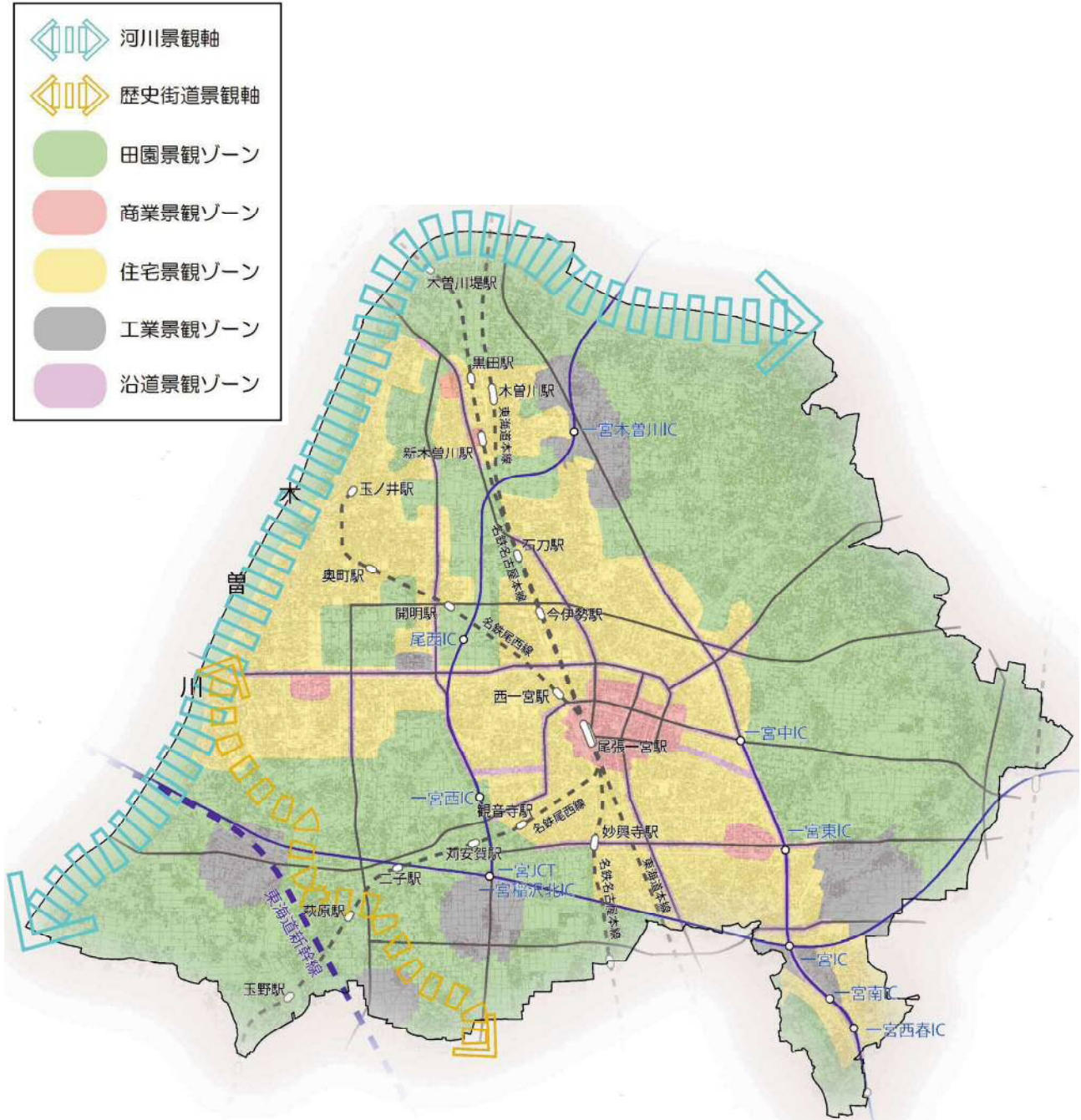
尾張地域の中核市として、交流人口の増大を図り、多くの人が行きかう市街地での活気や多様なにぎわいのある景観づくりを行います。

【方針5】官民連携による景観づくり

行政による公共空間の景観形成や保全のみならず、市民・企業の取組による影響が大きいことから、市民・企業・行政の協働により、多様で個性あふれる一宮らしい景観にむけ、体制づくりを構築します。

4 ゾーン別景観形成の方針

本市の景観特性をふまえ、市域において2つの軸と5つのゾーンを設定しました。軸とゾーンについて、それぞれの特性に合わせた景観形成の方針を定め、今後の景観形成の推進の指針とします。



軸・ゾーンの設定図

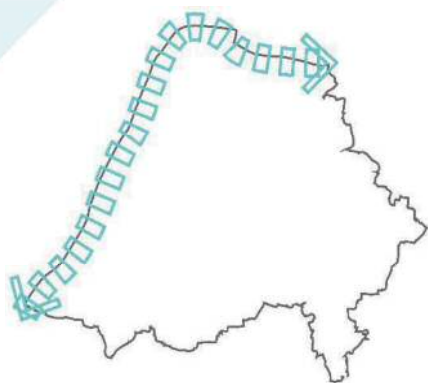
(1) 軸の方針

○河川景観軸

本市の県境には本市で最も特徴的な景観の一つである自然景観として一級河川の木曽川が流れています。市民が最も親しみを感じる景観であり、国営木曽三川公園 138 タワーパークをはじめ、木曽川緑地公園、富田山公園など様々な主体が管理する公園があることから、一体的な景観形成を推進する必要があります。

そのため、市域に沿って流れる木曽川左岸堤防の河川側を「河川景観軸」として定め、特別に景観形成の方針を定めます。

位置



木曽川堤防の河川側



木曽川尾西緑地、富田山公園周辺

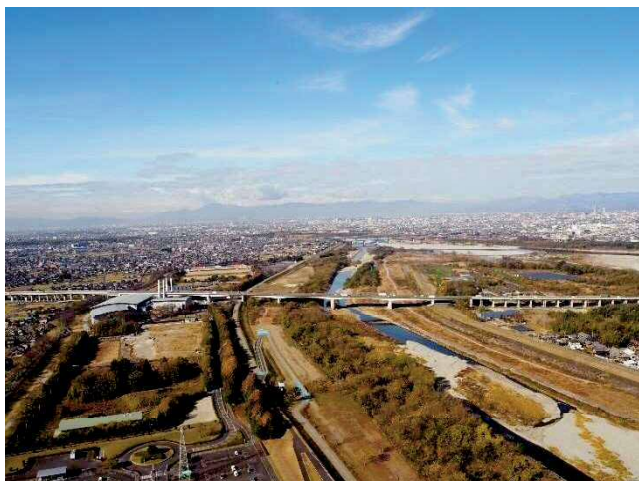
特徴

木曽川沿いには、国営木曽三川公園 138 タワーパークや、木曽川緑地公園、富田山公園など規模の大きい公園が立地しており、自然豊かな景観が広がります。また、国営木曽三川公園 138 タワーパークには本市の代表的なランドマークである、ツインアーチ 138 が建っています。

木曽川沿いの景観は市民が最も魅力を感じる景観であり、木曽川堤外地からは一宮市内を望むことは出来ないものの、養老山地をはじめ対岸の山々を遠景に望むことができます

— 景観形成の方針 —

本市特有の木曽川や国営木曽三川公園 138 タワーパークなどへの景観の保全に努めます。
木曽川堤防からの眺望景観の保全・形成に努めます。



ツインアーチ 138 の頂上から西側を見た景色



ツインアーチ 138 の頂上から東側を見た景色

○歴史街道景観軸

本市には岐阜街道や巡見街道、美濃路など様々な街道が通っていました。近代以降の都市化によってその形成の多くは失われた一方で、美濃路については、宿場と河川交通の要衝（萩原宿・起宿）の名残が今も比較的多く残されています。

そのため、美濃路を「歴史街道景観軸」として定め、特別に景観形成の方針を設定します。

位置



美濃路



萩原宿

特徴

宿場と河川交通の要衝（萩原宿・起宿）の名残が今も比較的多く残されており、宿場ならではの街道沿いに短冊状に割られた敷地割りが今でも残っています。

美濃路と木曾川の結節点であり、水陸交通の拠点であった起渡船場跡のほか、旧林家住宅や湊屋など当時の景色を感じさせる木造建築物が現存しています。

— 景観形成の方針 —

美濃路は、点在する、かつての宿場であったことを感じさせる史跡や建築物を活かした風情ある景観の保全・創出を図ります。



旧林家住宅



起渡船場跡

(2) ゾーンの方針

○田園景観ゾーン

位置



市街化調整区域のうち、都市計画マスタープランの土地利用方針図“産業拠点”を除いたエリア



特徴

濃尾平野の中央部に位置し、木曽川沖積平野の低地であることから、高低差が少ない平坦な農地が広がっています。農地が広がる市街化調整区域においても多数の集落地が分布しており、農用地と一体的な田園景観が形成されている地域があります。

一方で、集落地に隣接してミニ開発が進んだり、耕作地にソーラーパネルが設置されるなど、集落地景観の喪失、農用地の分断等が進んでいます。

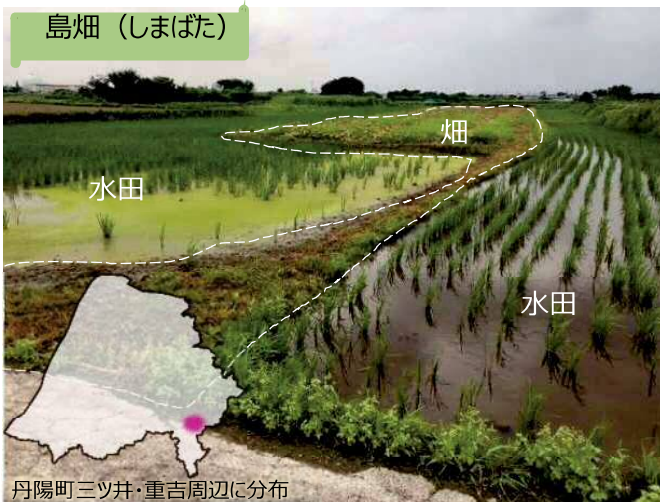
一宮 IC 付近には全国的にも珍しい大規模な島畑が見られます。

— 景観形成の方針 —

濃尾平野の平坦な地形からなる田園とその集落地が織りなす、落ち着いたある田園景観の保全・形成に努めます。

田園景観を保全するために、屋外広告物やソーラーパネル等の設置の適正化に努めます。

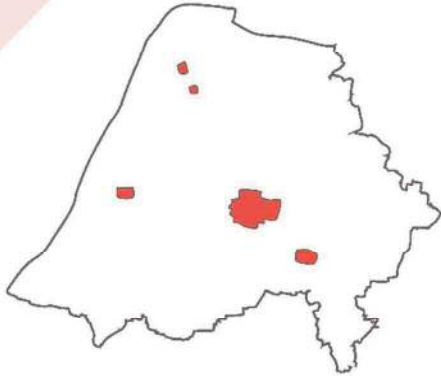
島畑（しまばた）



島畑とは、一筆の水田内部に島状に畑地としていた様から、そう呼ばれる農業景観です。平坦な地形という稲作を行うにあたっての水利不利条件を克服するため、導水できる高さまで土地を掘り下げ、副次的に出る残土を積み上げ、その土地を畑として利用したものです。かつては日本全国で確認ができましたが、灌漑・圃場整備が進むにつれ減少しました。当該地域ほどの規模の島畑が残存していることは珍しく、本市を代表する産業景観の一つです。

○商業景観ゾーン

位置



都市計画マスタープランの土地利用方針図“商業業務地”



特徴

真清田神社を起点とした本町通りや、尾張一宮駅前ビル（i-ビル）を起点とした銀座通りなど、古くから尾張地方の中心地として発展してきた市街地景観が形成されています。真清田神社は尾張国の一宮であり、本市の名称もこれにちなんでいます。その正面にある「宮前三八広場」では、江戸時代中期において、日用品の交換や綿織物売買のための市場である「三八市」が開かれていた歴史があり、当時の賑わいが現在の中心市街地のルーツとなり、現在でも真清田神社は一宮市の代表的なランドマークとなっています。2012年（平成24年）に共用開始した、尾張一宮駅前ビル（i-ビル）は図書館や子育て支援センターなどを有しており、本市の顔としての新たなランドマークとなっています。本町通りにある開閉式天蓋型アーケード商店街は、毎年行われる一宮七夕まつりのメイン会場となっており、真清田神社へ続くこの通りは本市を代表する景観のひとつとなっています。

黒田駅の西には大規模商業施設を中心とした風景に加え、新木曾川駅西側、尾西庁舎周辺や一宮東IC西側においては商業施設と住宅地が混ざりあった景観が広がっています。特にせんい地区は、街路樹や公園などの、比較的緑の多いまちなみとなっています。

—景観形成の方針—

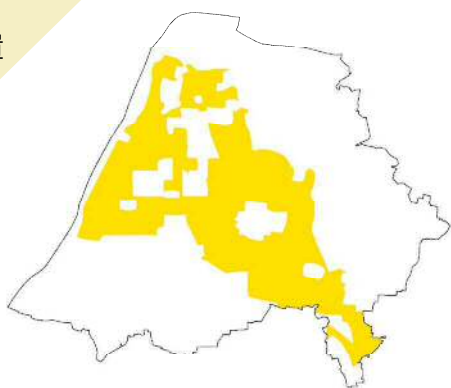
古くから尾張地方の中心市街地として栄えてきた真清田神社を中心とした歴史的なまちなみ景観を保全します。

尾張一宮駅前ビル（i-ビル）や銀座通り周辺は本市の新たな玄関口として、一体的な景観の形成を図ります。



○住宅景観ゾーン

位置



市街化区域のうち、商業景観ゾーン、工業景観ゾーン、沿道景観ゾーンを除いたエリア



伝法寺土地区画整理事業施行地内

特徴

住宅景観ゾーンの南部においては戦後、複数の地区で土地区画整理事業が行われており、これによって計画的に整備された住宅地が広がっています。

多加木緑道や尾西緑道、毛受緑道など複数の緑道が存在し、市民が身近にみどりと接することができる空間として、親しまれています。

繊維産業に由来するのこぎり屋根の木造建築物が点在しているほか、一部地域においてはこの地域の特徴であるのこぎり屋根の意匠を取り入れた店舗なども見ることができます。

一 景観形成の方針 一

本市の代表的な産業である繊維産業に由来する、のこぎり屋根工場の保全に努め、のこぎり屋根工場が点在する地域特有のまちなみ景観を保全します。

市内に複数存在する緑道は、市民が身近にふれあうことのできる貴重なみどりであるため、これら緑道の適正な維持管理に努めます。

ゆとりある豊かな生活の維持のため、住宅地の景観を保全します。



木曽川町玉ノ井の住宅地にあるのこぎり屋根工場



尾西緑道

のこぎり屋根工場



一宮市内を見渡すと、のこぎりの歯に似た屋根を持つ建物が点在しているのがわかります。この建物は主に、一宮市を発展させてきた繊維産業の工場として使われていました。特に木曾川に沿って、木曾川町から起周辺に多くみることができます。

歴史を持ち、今でも数多く存在する「のこぎり屋根工場」は、一宮市の特徴ある景観と言えます。

のこぎり屋根工場の主な特徴



こちらの写真は、木曾川町玉ノ井にあるのこぎり屋根工場です。今でもこの工場の中で、低速の織機を用いてゆっくり丁寧に毛織物が織られています。近くを通ると、織機の動く音が聞こえてきます。



新しい使い方

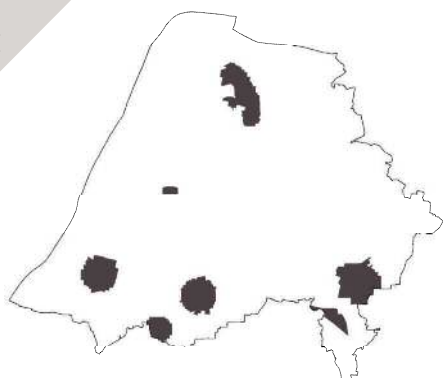
現在では、使われていない「のこぎり屋根工場」も多くあり、年々数が減っていますが、新たに活用されている事例もあります。

こちらの写真は、籠屋にあるのこぎり屋根工場で、毛織物工場からギャラリー兼アーティスト工房、カフェとして再活用されている事例です。



○工業景観ゾーン

位置



都市計画マスタープランの土地利用方針図“専用工業地、工業地、産業拠点”



名神高速道路一宮IC付近

特徴

既存工業地及び、新たに企業誘致をはかる産業拠点からなるゾーンであり、既存の工業地である萩原工業団地や明地工業専用地域においては計画的に整備された工場が広がっています。

周辺環境との調和を図る緑地や街路樹が整備されています。

— 景観形成の方針 —

企業との協働により周辺と調和した景観への取り組みを推進します。

敷地内緑化などにより、ゆとりある空間を確保し、圧迫感を与えない工業地の景観の形成を目指します。



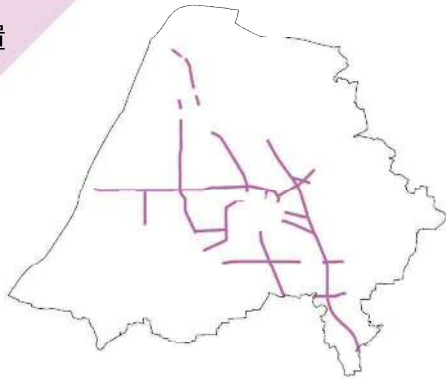
萩原工業団地



明地工業専用地域

○沿道景観ゾーン

位置



都市計画マスタープランの土地利用方針図“沿道複合地”のうち、商業景観ゾーンを除いたエリア

【対象路線名（一部区間）】

一宮弥富線、北尾張中央道、国道 22 号線、西尾張中央道、一宮犬山線、一宮各務原線、一宮春日井線、一宮小牧線、岩倉街道線、富田一宮線、名古屋岐阜線、濃尾大橋線、萩原多気線

特徴

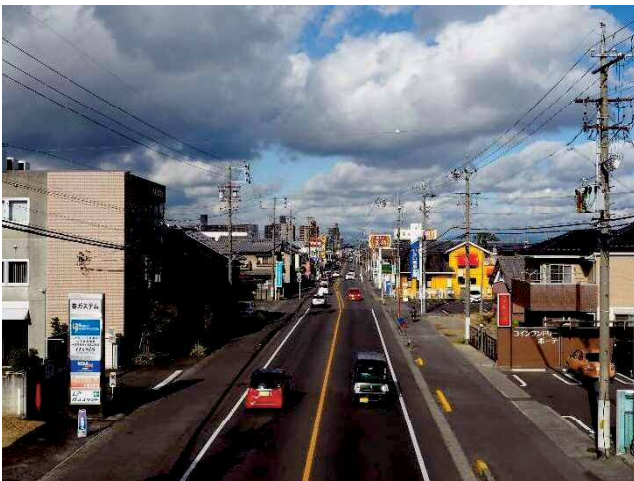
主要幹線道路沿道の商業施設が立ち並ぶゾーンであり、大型小売店舗やロードサイド型の飲食店等が立ち並ぶ景観が見られます。

商業施設のほか、それに付随して、色や大きさのほか、のぼりやデジタルサイネージなど様々な形態の屋外広告物が数多く設置されています。

— 景観形成の方針 —

企業との協働により周辺と調和した景観への取り組みを推進します。

屋外広告物への配慮を促し、一体感のある沿道景観を形成します。



県道名古屋一宮線沿い今伊勢小学校前付近



国道 155 号沿い富士小学校南交差点付近

